

宮城県産業教育審議会第4回専門委員会 会議概要

日 時 令和6年11月22日（金）午後2時から午後4時まで

場 所 県庁行政庁舎 庁議室

出席委員 佐藤（千）委員、成田委員、佐々木（道）委員、小泉委員、橋浦委員、太田委員、
岩本委員、昆委員、高橋（彩）委員、小池委員、志羽久委員、佐々木（幸）委員
以上12名全員出席

県出席者 菊田高校教育課長
高橋高校教育課教育改革担当課長
伊藤高校教育課総括課長補佐 他関係職員（事務局）

1 開 会

2 開会挨拶 菊田高校教育課長

3 報 告

（1）宮城県産業教育審議会第3回専門委員会会議概要

（2）第1回宮城県産業教育審議会会議概要

- 「レイトスペシャリゼーション」についてどの程度遅らせることを指しているのか。進路選択が遅くなると、生徒が普通科志向に流れがちになることが心配である。

4 協 議 （座長：佐藤（千）委員）

（1）提言素案について

〔委員からの主な意見〕

《提言素案の文言や表現についての御意見》

- 時代の変化に応じて、求められている人材は変わってくるものである。そういう人材を育成するために、これまで各学校でいろんなことに取り組んでもらっているが、どんな手法でアプローチして、どんな生徒を育てていくか具体的方策を探るときに、実現可能な方策なのかどうか、読み手に誤解を与えないような表現になっているかどうか、もっと必要なものはないかのアイデアをいただきたい。
- 農業については、（一番大きい）県農業高校であっても90%以上は非農家の生徒が入学してくる中で、従来型の農業の不便をDXで解決する半面、基本的な学びが大事との考え方もある。一方、ブレイクスルーもある。両面の考えが大事。
- 農業科の生徒も経営や経営感覚を学ぶ時間があればいいと思うが、実際は生産で手一杯である。必要と分かっているが時間が限られている。
- 提言素案は多くの要素を入れていただいた。1（1）○1で、「これまでに存在しなかった仕事が誕生」とあり、新しい仕事が今後生まれてくると言われている中で、普通科志向の生徒を振り向かせる魅力を示していけるような、新しいものに即応できるものにするのいいと考える。専攻科等の専門的で継続的な学びと即応性は、専門高校の強みになる。
- 基礎的な学びが大事である反面、先端機器にも触れる学びが必要と考えると、今後企業における実際の経験は専門高校における魅力となり得る。
- 2（2）○1「生徒数や学校資源等施設設備の有無で学びの内容に差が生じることのな

- いよう」とある。質が変わらないような在り方を担保したい。
- 非常にまとまっていて、1（1）○2「情報収集能力、分析力。さらに社会のニーズを汲み取り、課題に柔軟に対応する力、価値観の違いを理解調整し、変化に即応できる人材の育成」という起業家精神が今後求められる。
 - 1（2）産業ロボットやAIの活用として、「スイッチを押す人材ではなくスイッチやシステムを作る人材、メンテナンスをする人材の育成」が必要である。
 - 大学や企業等との連携が大事と明記されているのがいい。
 - 遠隔授業の積極活用については限界がある。VR体験をしたが、自分は体質が合わなかった。
 - 学校はスクラップが苦手な疲弊しており、英断を下せずマンパワー不足である。役割を終えている学びは終了する等スクラップが必要だが、教科書に掲載されているとそれも難しい。
 - 提言素案から、単に物の生産やサービスの提供だけではだめだとわかった。
 - 提言素案1、2を通して、起業家精神を育んでいかなければならないと思ったが、教員が一番苦手な分野。そこを外部との連携によって補うが必要になると思った。
 - 提言の先の県全体の施策を盛り込んで「産学官連携しなければならない」というところまでは言い切ってもいいのではないかな。それによって学校の中で、捨てるべきものは何か精査することになる。
 - 生活スタイルの多様化と少子化によって、福祉サービスを受けられなくても、隣人のために働く必要が出てくることがあり得る。人のために働くという倫理観を育む教育体験をお願いしたい。未来や将来という言葉を入れてほしい。
 - 2（1）「発酵・醸造」だけではなく「衣食住」すべて大事ではないか。また、「1人1台情報端末」という単語はもう古いのではないかな。
 - 1（1）○5「自律的な起業家精神」の「アントレプレナーシップ」には既に「自律的な」の意味が含まれており、表現として引っかかりを覚える。
 - 「専門性」を深めつつ「自由な学び」という提言案について、生徒が自分の興味関心に合わせた授業を大学のように自分で選択する時代が来るのではないかな。好きなことを夢中で突き詰めていく楽しさの中で、学びの本質に触れることができるのではないかと感じた。
 - よく「ニーズ」というが、その「ニーズ」はどう把握するのか、自身の反省と共に、誰のニーズを汲んで、どう形にするかが問題ではないかな。

《外部人材（ファシリテーター、技能実習生）の活用についての御意見》

- 外部連携が大事だとわかっているが日程調整だけで大変な手間である。岩手県立大槌高校に視察しに行ったとき、職員室にNPOのファシリテート専任が常駐していて衝撃だった。教員の負担が減り働き方改革になる。
- これからの教員の役割として、ものを教えるのはもちろんだが、ファシリテーター的な役割が重要になってくる。
- 現段階では、個人的なつながりから外部連携しているが、それをデータベース化できないかな。
- 技能実習生を低年齢から受け入れ、専門高校で学べる仕組みを作れば、教員も生徒と共に学びながら、国際的な感覚を身に付けていくことができるのではないかな。
- 仙台育英学園高校は、3年生から留学して日本語を学びながら、外国人介護人材育成プログラムを行っており、企業がスポンサーになっている。県の介護人材の助成金によって生徒の支援をしていることを発信していくと、魅力の一つになるのではないかな。
- 自分の好きな分野だけやりたいという人は会社員の中にもいてトラブルになることもあるが、それしか知らないことを知られたくないのではないかな。それをファシリテーター

やコーディネーターが話を聞き、本人が自分が知らないことを知ることで落ち着いていくことがある。ファシリテーターやコーディネーターは現場の負担を減らすと考える。

- 業務量が多くて現場が疲弊しているという御意見は教育現場にいる1人として理解できる。ぜひ連携したコンソーシアムで、教育内容まで踏み込んで互いに協議しながら進めるイメージを持てるとよい。
- 「魅力的な県立高校づくりのためのアンケート」を読ませていただいた。「社会貢献や地域おこし、地元に残るための学びをしたい」という声があり、子供たちはよく考えていると感じた。地域における学びや外部との連携が可能な点などは、専門高校が持っている魅力だと思う。探究活動が肝になってくると思うので、地域、大学、企業、NPOと関係を深め、突破口にしてほしい。

《その他の御意見》

- 学校種によってゴールをどこに設定するのか変わってくる。提言素案では、さまざまな学校種ごとの在り方がかかれているが、その先に上位の学校に進む選択肢も含めてゴールまで考えることが必要。将来的には、県に専門職大学のようなエスカレーター式に進学できるような学校があれば、専門高校に行きたい生徒は増えるかもしれないし、もしくは柔軟な編入制度があればいいのではないか。
- 正直に言うと、本当にこれをやるのかといった感がある。学校は疲弊しているのに、やることが積みあがっていく感じがするので、「これはやらなくていい」というラインも明記してほしい。
- 現在あるものを減らす御提案があったが、これから生徒が減ることが前提になっている。生徒数の減少にしたがって今の学びは維持できなくなる。その時にどうしてもやらなければいけないことは何かを考えながら書いていたため、このような書きぶりになっていることは御理解いただきたい。
- 一人の人が一つの専門だけではなくて、いろいろなラインのことができるようになる「多能工」が求められる時代の中で、高等技術専門校の学科も、多くのことを学べる学校を目指している。
- 生徒は「自由な学び」だが、その逆にカリキュラムの中で先生方は「自由な教え」はあるのか。
- 「魅力的な県立高校づくりのためのアンケート」の中に、得意分野や専門的な学びをしたいとか、交流をしたい、他学年や他校との交流をしたい、職業人や地域の人との交流、方向転換ができることやいろいろな選択肢がある学びということも書いてあって興味深く読んだ。

(2) その他

今後の審議会予定について